

だてけごしゅでん 伊達家御守殿第一号振姫

名掛丁東名会 梅津恵一

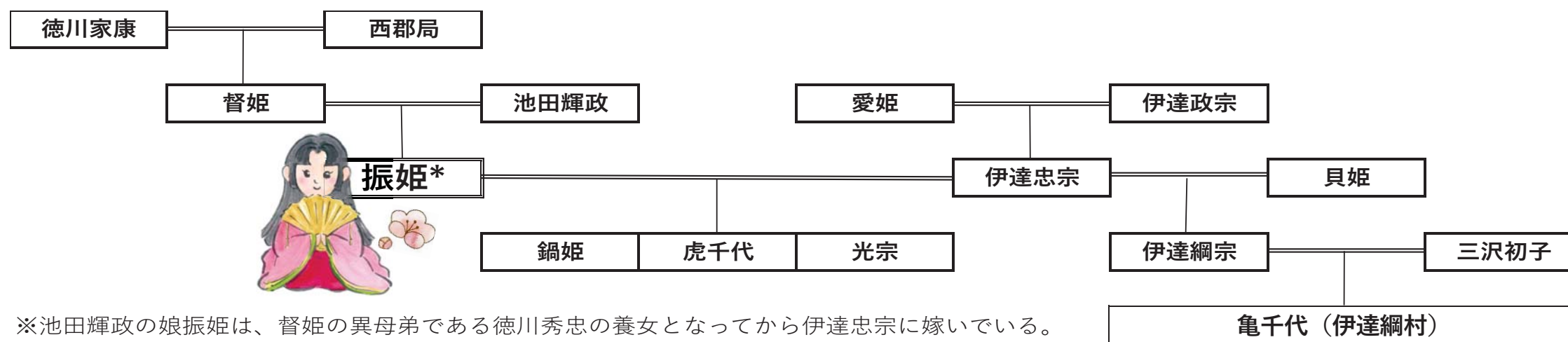
振姫は仙台市民にとってはあまり有名ではないが、伊達政宗が後継者の忠宗の正室として、徳川家康との政略結婚で迎え入れた姫君であった。将軍家の姫を嫁に迎えた場合は、奥方といわずに御守殿といい、振姫は伊達家第一号の御守殿であった。その振姫のお墓が榴岡にあるが、思わぬことから姫様の入輿がその後の伊達家の歴史に大きな影響を及ぼしたことを知ることとなった。

それは一昨年、大学時代の親友と会うために、四十年ぶりに岡山を訪ねたことがきっかけだった。友人は出かける前に電話をよこし、「どこか見たいところがあるか」と言うので、「知人が曹源寺というお寺で葬儀をしたので、墓参りをしたい」伝えると、岡山に着いて、早速案内してくれた。ところが驚いたことに、その寺には一般の人たちのお墓は全くなかった。それもそのはず、そこは岡山城主、池田家のための菩提寺だった。何故知人がこの寺で葬式を挙げたのかは寺の人に尋ねても、当時のことを知る人もなく、墓参りはあきらめて、池田家代々の墓参りをすることにした。その墓は備前焼で有名な町がそばにあるせいか、立派な陶器の大燈籠があるなど、伊達家の廟を思わせる立派なものだった。その時、我が家の近くにも池田家から伊達家に嫁いだ姫様の墓があったことを、ふと思い出したのが振姫に興味を抱いたことの発端であった。

振姫は元和三年（1617）に二代藩主、忠宗の正室となったが、本来はその予定ではなかった。家康は第四女の松姫、あるいは第五女の市姫を忠宗と結婚させることを政宗に約束していたが、二人とも早世してしまったので、急遽、外孫に当たる池田輝政の娘（母は徳川督子）、振姫に白羽の矢が当たったのであった。振姫は先に将軍家の娘として、家康の側室、英勝院に養育され、後に徳川二代将軍、秀忠の養女となってから、入輿し、伊達家御守殿となった。

振姫には紀伊というお側女中がいた。山陰の尼子義久の重臣、三沢清長の妹で毛利に滅ぼされた後に、兄の清長は初子と又四郎の二児を抱えて浪人の身となった。紀伊は細川忠興の世話

・振姫と伊達忠宗を中心とした家系図・



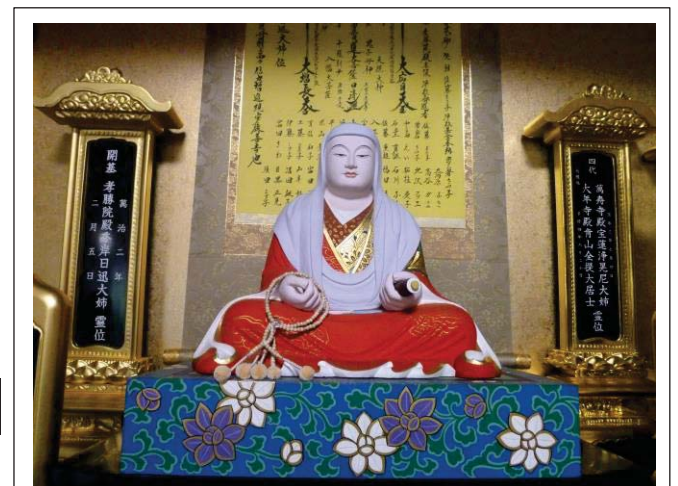
で池田家に仕え、その後、振姫と共に江戸城大奥、さらに伊達家江戸屋敷へと移った。その際、振姫の許可を得て、十一歳で父と死別した三沢初子を引き取った。その初子は心優しい利発な子であったので、振姫は初子を大変かわいがり、小間使いをさせる傍ら大奥の教育を施した。その甲斐あって初子は忠宗の思しめでたく、十七歳のときに、三代藩主綱宗の側室となり、亀千代（四代藩主綱村）を生んだのであった。

振姫には二人の息子がいた。特に次男は早世した兄にかわって三代将軍家光より名の一文字を頂戴して光宗と名乗り、将来を期待されたが、十九歳の若さでなくなってしまった。そこで心優しい振姫は、先に亡くなった側室、貝姫の息子綱宗をわが子のごとく育て上げ、三代藩主を継ぎがせることにした。ところが父忠宗は死ぬ間際まで、綱宗に家督を譲ることをためらっていた。綱宗は若い時から酒乱で、藩主を継いでからはさらにひどくなり、藩の運営も独断的で、また度重なる遊郭通いの不行跡を咎められ、ついに幕府から隠居を命じられた。伊達騒動は綱宗の跡継ぎの亀千代がわずか二歳であったがために起きた、跡目争いに伴う伊達家のお家騒動であった。そう考えると、振姫は家康の娘達が早世しなければ伊達家との結婚はなく、また息子達が早世することもなければ、仙台藩政史最大のスキャンダルとなった伊達騒動は起きることもなかった。それ故に、この騒動が江戸時代から今日に至るまで、歌舞伎「伽羅先代萩」やNHK大河ドラマ「樅の木は残った」など、様々な小説や舞台に取り上げられることもなかった。まして、その主役となった三沢初子が『政岡（ドラマでは幼君の乳母役）の名で演じられ、幼君を陰謀に満ちた毒殺から守り通した賢婦』として後世に名を残すこともなかった。

振姫の生涯は伊達家の歴史を大きく変えた波乱に満ちたものであったが、残念ながらその実像を伝える記録は少ない。それ故、忘れ去られた人となってしまった。振姫は忠宗が亡くなられた翌年、万治二年（1659）に五十三歳で亡くなった。生前から日蓮宗を深く信仰し、法名は考勝院殿秀岸日迅大姉、その亡骸は三代藩主綱宗、初子夫妻の手で善勝寺（後に孝勝寺に改名）の伊達家廟に手厚く葬られ、今はそこで人知れず静かに眠っている。されど、廟の前には三沢初子の生涯を伝える案内板と「政岡の墓案内所」の看板だけが大きく掲げられている。いつの世でも『忠臣蔵』と同じく、「事実は小説よりも奇なり」とは言うものの、奇から生まれた物語が一人歩きをして、真の歴史の如く今も言い伝えられている。

参考文献

- 『郷土史仙台耳ぶくろ』三原良吉 宝文堂 1982年発行
- 『せんだい歴史の窓』菅野正道 河北新報出版センター 2011年発行
- 『仙台藩歴史辞典』仙台郷土研究会編 2002年発行



考勝寺の考勝院殿秀岸日迅大姉（振姫）の像